

経営比較分析表（平成30年度決算）

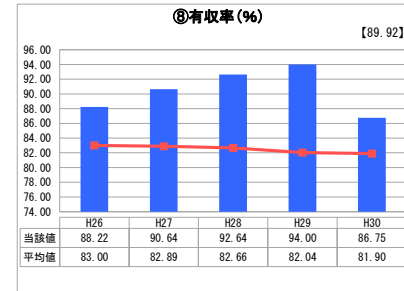
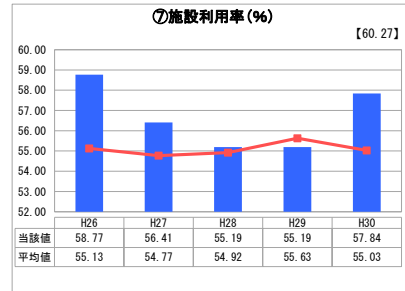
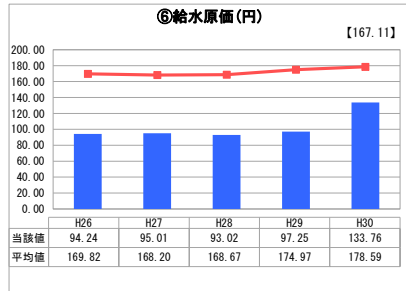
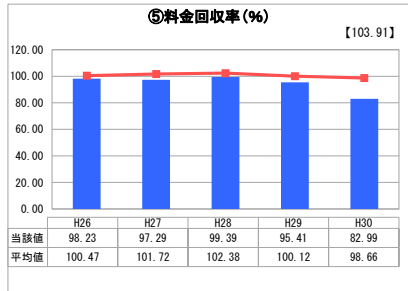
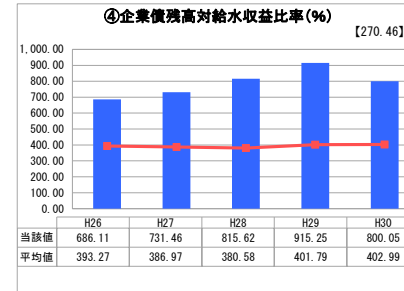
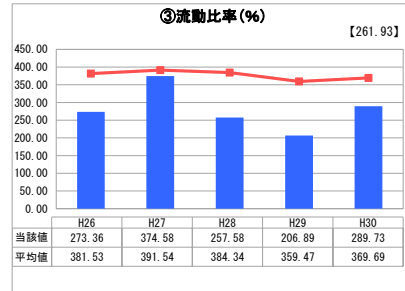
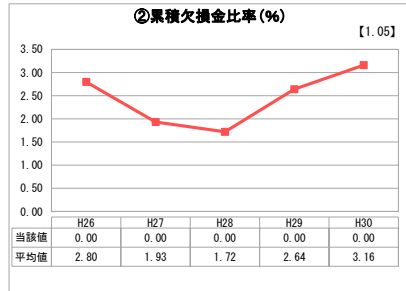
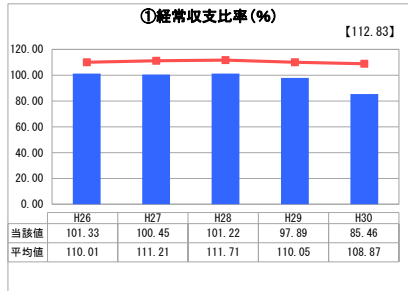
岐阜県 垂井町

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	52.57	85.37	2,130	

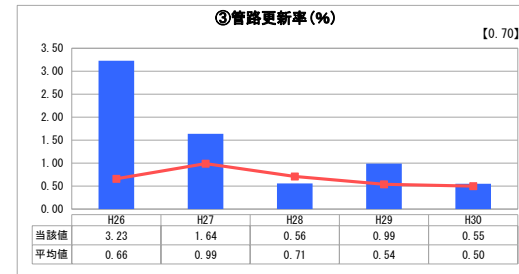
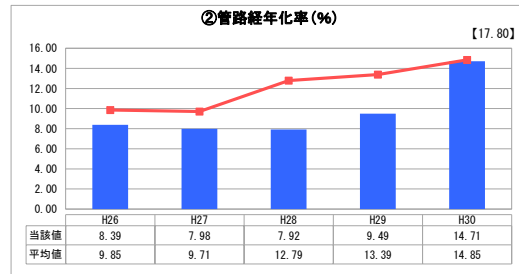
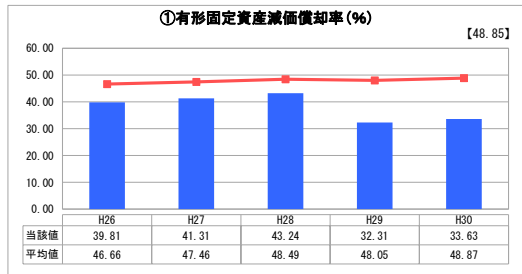
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,467	57.09	481.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,406	21.73	1,077.13

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・経営の健全性について
平成30年度は、施設の更新に伴う旧施設の除却がありましたので、資産減耗費が例年より増加し、経常収支比率が100%を下回りました。
また、有収水量が前年度より大きく減少しましたので給水原価が増加し、これに伴い料金回収率が100%を下回りました。

有収水量は減少しましたが、平成30年度より料金改定を行いましたので、給水収益は増加しました。このため、企業債残高の規模を示す企業債残高対給水収益比率が前年度より減少しました。
しかし、類似団体と比較して高い数値にありますので、定期的な財源の見直しを行う必要があります。

・経営の効率性について
有収率は前年度と比較して減少しています。これは、漏水による無効水量が増加したことが考えられます。
今後は、定期的な漏水調査を実施し、有収率の向上に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は平成28年度と比較して大きく減少しています。これは、水源地等の更新により旧施設を除却したことによるものです。
しかし、管路経年化率は増加傾向にあり、法定耐用年数を超えた管路が増加していることが分かります。

今後は、計画的な管路の更新を行っていく必要があります。

全体総括

平成29・30年度は、水源地等の更新により旧施設の除却を行いましたので、一時的に費用が増加し、経常収支比率が100%を下回りました。
しかし、平成30年度に料金改定を行ったことにより、給水収益の増加が見込まれ、令和2年度以降は経常収支比率が100%を上回ることが予測されます。
今後は、老朽管路も増加していくことから、計画的な管路の更新を行っていく必要があります。
また、人口減少・節水意識の向上により有収水量は減少すると考えられます。
適切な財源の確保のために、費用削減に努め、健全経営に努めていきます。